

2009年3月29日

コロンビアにおける主の回復にあるすべての聖徒たちへ、

わたしたちは、コロンビアの二十の地方とそのほかの多くの地方での主の証しのために立ち上がっている兄弟たちです。コロンビアだけでなく、地球全体のすべての諸召会の中の、キリストのからだの実行的な交わりにあずかるのは、わたしたちの大きな喜びであり続けてきています。長年に渡り、コロンビアの兄弟たちは半年に一度メデリンの近くで交わりとブレンディングのために集まりました。この時期に、わたしたちは最新の国際長老責任者訓練の内容を復習しました。最近では、コロンビア中から来た聖徒たちが九十六題目の訓練のために共に集まりました。訓練のどの集也会も二十以上の諸召会からの三百名近いの聖徒たちが参加しました。わたしたちは、これらのすべての集まりでのブレンディングにより、命と一の中の大きいなる祝福を享受しました。一に対して主が命じられた享受を保つために（詩篇第133編）、あなたがたに手紙を書き、コロンビアにおける主の回復に関連する重要な問題、すなわちドン・ユー・ラン兄弟の分裂的で有害な働きに取り組まなくてはなりません。

ウォッチマン・ニーとウイットネス・リーの出版物を最初にコロンビアに持ち込んだ人たちを含めて、わたしたち以前に主の回復にあった人たちの働きによる益を、わたしたちは長間にわたって享受してきました。おもにこの手紙で取り組まれた問題のゆえに、取り組みや多くの誤解に困難はありますが、わたしたちに先行してコロンビアにおける主の回復の中にあつたこの人たちへのわたしたちの評価は引き下げられるものではありません。ですから、わたしたちがあなたがたに手紙を書くのは、国内全体、そして国外も含めた諸召会と聖徒たちへのわたしたちの心配と憂慮からであつて、いかなる個人的な憎悪からでもありません。

メキシコとスペインの諸召会によってインターネット上に公開された警告の手紙を読み、ここコロンビアにおいてもそれと関連する状況があることをよくよく承知していましたので、わたしたちもキリストのからだのひとと、主の回復における諸召会の中のひとつ思いのために、公に態度を明確にしなければなりません。わたしたちはほかの諸召会と組み合わせられて、ドン兄弟の働きと教えと実行とを拒絶しなければなりません。

ドン兄弟のコロンビアにおける働きを取り巻く問題は、おもに三つの範疇に分けられます：

- ドン兄弟と彼の務めを高く上げ、主の回復で受け入れられている全般的な務めを中傷する、誤った分裂的な教え
- ある人たちがドン・ユー・ランの務めを優先させることによって引き起こされた事実上の分裂
- キリストのからだの宇宙的な交わりを追い求めることへの妨げ

誤った分裂的な教え

世界地図によって描かれた、啓示録第12章に関するドン兄弟のいわゆる「ビジョン」は、ドン兄弟とその同労者たちによって長年広められてきたので、コロンビア中でよく知られています。この「ビジョン」を取り入れることは、ドン兄弟と、彼の務めや働きを称賛することです。それは、彼の働きが全地に王国の福音を広める唯一無二の神聖な委託を持っていると信じ込ませるように描いています。わたしたちはこの誤った分裂的な教えを、自らを美化するような強調と共に拒絶します。アメリカのボストンでの2007年のブレンディング特別集会で、この教えの謝りが暴露され、また正されました。さらに、主の回復の同労者たちは、この逸脱し、分裂的な教えを広めている人たちにやめるよう命じました。同労者たちがこのように誤りを正し、またそれをやめるように求めたにも関わらず、ドン兄弟と彼の同労者たちはこの誤った教えを広め続けています。2008年8月、コロンビアのバランキヤでドン兄弟は、主の回復の中の同労者たちに対していわれない多くの誹謗中傷を公に行なつて、彼らは偽りと野心の方法で働きを行なっていると発言し

ました。さらに彼は同労者たちを受け入れた人たちをけなして、彼らはただ真理を分析することを顧みるだけで、もはや主の名を呼んだり、御言葉を祈り読みしたりせず、その結果サルデスの死んだ状況にまで落ち込んでしまったと言いました。わたしたち自身は同労者たちと直接接触していますので、彼らに対してのこれらの非難は偽りであると強く証しします。これらのいわれない誹謗中傷をドン兄弟が公に流布させているのは、キリストのからだに対する重大な違反であり、ドン兄弟が主の回復の一つの働きを軽んじていることの暴露です。

バランキヤにおいてドン・ユー・ランは、スペイン語圏での働きに対して自分には権威があると偽って主張し、ウイトネス・リーが彼をその働きを任せただと言いました。働きの地域に「使徒たち」を立てるのは、決してウイトネス・リーの方法ではありませんでした。実際のところリー兄弟は、主の回復の中には一つの働きだけがあるべきであり、働き人たちが働きの地域を支配し、彼らの働きをほかから分離しようとするのは結局は分裂を引き起こす、と繰り返し教えていました：

もう一つの分裂の隠された要因は、分離した領域を保とうとする傾向です。神の永遠のエコノミーを完成するための主の働きと動きは唯一です。もしわたしたちが主の唯一の働きにあずかっているどの領域をも、自分の特定の領域と考えるなら、これは分裂の理由、あるいは要因となります。分離した領域を保とうとする傾向でさえ、根こそぎにされなければなりません。・・・わたしたちの地域における地方の働きは、主の宇宙的なからだのためでなければなりません。新約で、主の働きにおける管轄区域のようなものを見いだすことはできません。（長老訓練、第10巻、長老職と神の定められた道（二）、p. 11）

ドン兄弟はまた、リー兄弟がほかのすべての同労者たちにラテンアメリカでの働きを禁じたと主張しました。ウイトネス・リーは、主の働きに対してそのような支配力を振るわなかっただけでなく、さらに多くの同労者たちが主の回復のために多くの地に出て行くようにという彼の渴望について何度も公に語り、それには中央アメリカと南アメリカも含まれています。アメリカ合衆国での務めの当初から、リー兄弟は多くの同労者たちがほかの地と共に、南アメリカにも行くように望んでいました。1964年、ウイトネス・リーは次のように言いました：

主はわたしたちにあわれみ深いという確信が、わたしにはあります。さらに、わたしたちが主に忠信であるなら、わずか三年以内に、ある兄弟姉妹は福音のために出て行くでしょう。宣教師としてではなく、ただ弟子として、ある人たちは福音のために出て行き、東海岸、カナダ、メキシコ、南アメリカに行くかもしれません。主の回復のために、わたしたちは出て行く必要があります。（集会においてまた福音において仕える、p. 50）

それ以降、何度もリー兄弟は同じ望み、願い、意図にを表明しました。1991年、彼の晩年の務めにおいて、彼は次のように言いました：

回復は実際であって、真理において豊かであるので、全世界は回復に対して開いています。特に中央アメリカと、プエルトリコとカリブ海諸島を伴う南アメリカのすべてがわたしたちに開いていると、わたしは言います。わたしたちには、これらの場所から、だれか来て助けてくれるようにとの多くの要請があります。これは、わたしたちの負担になりました。（長老訓練第11巻、長老職と神の定められた道（三）、75-76ページ）

ウイトネス・リーが、主の回復が妨げられることなく世界中に広がるべきであるという彼の見解を決して変えなかったことは、明白です。ドン兄弟の主張とは逆に、リー兄弟は彼の公の務めの中で一貫して、同労者とほかの人たちは自由に南アメリカに行き、真理と福音を広めるべきであると語りました。上記の問題におけるドン兄弟の教えは、主の回復における一つの働きを犠牲にして、彼自身の個人的働きを称賛するために用いられています。そのような教えの結末は分裂以外にありません。これは世界中の多くの場所ではっきりと明らかになって来ています。

分裂と妨げ

残念なことに、ドン兄弟の働きの結果としてコロンビアで分裂が生じました。トゥルアでは、ドン・ユー・ランの働きを支持する人たちが、彼の書籍を召会の聖徒たちに広めようとしていました。トゥルアに在る召会がドン兄弟の務めを受け入れなかったために、ドン兄弟の支持者たちに煽動された少数の聖徒たちが説明もなく召会から離れて、分裂的な「パン裂き」集会を含めた分離した集会を始めました。パン裂きの集会は一の強い証しですが、この場合、分離された「パン裂き」の集会は、ある人たちのドン・ユー・ラン兄弟と彼の働きへのえり好みに基づいた分裂を証ししています（I コリント 1:10-13）。ほかの諸召会においても、ドン・ユー・ランの書籍と働きを広めよう企てたことによって引き起こされた問題があります。

諸召会の交わりを通して、わたしたちはコロンビアで九十六題目の訓練を開始する負担を持つようになりました。ある、ドン兄弟の働きに関わっていたある人は、当初九十六題目の訓練のための教材を使うことにも、北アメリカの兄弟たちが参加することにも反対しました。真理によれば彼らには諸召会に対する支配権はまったくなく、北アメリカの兄弟たちとこの地の諸召会との交わりを妨げる根拠もありませんでした。

例えば、ここの召会の聖徒たちがテキサスから働き人を招く必要があると感じるかもしれませんが、彼らには彼を招く全き自由があります。もし彼らがヨーロッパ、アフリカ、南アメリカなどからも人を招く必要があると感じるなら、彼らにはそうする全き自由があります。これこそわたしたちが実行すべき正当な道です。（召会生活の実行のための命と道、p. 87）

それにもかかわらず、わたしたちと同労者たちとの交わりを通して、ドン兄弟の追従者たちが主の回復の中の同労者たちとの広い交わりを維持することの価値を認識できることを期待して、九十六題目の訓練の開始を七年間遅らせました。しかしながら、北アメリカの同労者たちがドン・ユー・ランの働きに対する公に認めない限り、その訓練をカリで開始することはできないとドン兄弟の支持者たちは主張しました。わたしたちの知る限りでは、この要求は前例のないものです。それは、主の回復における働きの性質にはない、組織的で階級制度的な観念を浮き彫りにしています。同労者たちは、公的な立場においてではなく、キリストのからだの有機的な交わりの中で奉仕します。訓練と引き換えにそのような要求をすることは、絶対的に不適切です。それは、主の権益よりも個人的な権益を優先させることです。カリでの九十六題目の訓練の開始を妨げるために反対し、要求することは、ドン兄弟の働きがすでに真理からそれ、コロンビアにおける分裂の要素となっていたことを証明しています。九十六題目の訓練は、長く遅れはしましたが、それにあずかっているコロンビアの聖徒たちにとって非常に有益であることが証明され、またわたしたちの間での主の動きを加速させました。

ドン兄弟の追従者たちは、さまざまな不適切な口実を用いて、コロンビアの聖徒たちが主の回復における全般的な務めを受け取ることを妨げてきました。同労者たちが『主の働きにおける出版の働き』という小冊子を出版した時、ドン兄弟の多くの支持者たちはそれに反対し、その配布を禁じました。いくつかの地方では、聖徒たちは『朝ごとの食物』を用いることを公に批判しました。2006年、カリに在る召会はベンソン・フィリップス兄弟を迎えての特別集会を計画し、コロンビア中の聖徒たちに来るよう招待しました。ドン・ユー・ランの働きを支持するある人たちは、この特別集会に反対し、多くの聖徒の参加を阻止しました。参加した人たちは、多くの場合、後に追放されてしまいました。聖徒たちを諸召会の交わりから排除する公式の手紙が、これらの、また似たような「違反」を理由に、ドン兄弟の追従者たちによって出されました。いくつかの事例では、手紙の中で不正な行為の疑いがあると述べられたことが実は起きていませんでした。別の事例では、問題になっている行動が大きく誇張されていたり、あるいはすでに対処されていたりしました。

コロンビアの諸召会を悩ませて来た根本的な問題は、ドン兄弟の務めが主の回復の全般的な務めに対抗して分離した働きを行なっていることです。ドン兄弟はよくほかの人たちのことを南アメリカにおける働きを遂行するにあたって野心的であるとして非難しますが、実際、ドン兄弟と彼の同労者たちこそが野心的で、彼らの働きのための孤立した、個人的な領域を持っているのです。ですから、彼らはほかの人たちをすべて排除して、彼らの働きの領域を、彼らの個人所有の誇れるものにしたいのです。彼らの対抗する働きによってコロンビアには不一致の種がまかれ、諸召会がキリストのからだの普遍的な交わりにあずかる事が妨げられています。

ドン・ユー・ラン兄弟の働きに関する警告

コロンビアの諸召会代表し、コロンビアにおける主の働きの中で奉仕している兄弟たちとして、わたしたちはドン・ユー・ランと、その誤った、分裂的な働きに関して、聖徒たちに警告をしなければなりません。パウロがエペソの指導者たちのもとを去る時、彼らに言いました、「また、あなたが自身の間から、曲がった事柄を語って、弟子たちを引き離し、自分に従わせようとする者たちが起こるでしょう。こういうわけで……目を覚ましていなさい」（使徒 20:30-31）。悲しいことに、そのような分裂的な活動はパウロの時代に起こっただけではなく、召会歴史全体にわたって、またわたしたちが一を評価し、大切にしている主の回復においてさえも起こってきました。

分裂は、新約において深刻な事柄です。パウロは、コリント人たちの間に分裂があったという事実について、彼らを恥じ入らせました（Ⅰコリント 1:10-11、11:18）。「党派心、分裂、分派」は、ガラテヤ 5:20 で肉の働きとして挙げられています。分裂はそのような深刻な問題なので、「あなたがたが学んできた教えに反して、分裂やつまずきの原因を作る者たちを警戒し、また彼らから離れ去りなさい」と、パウロは聖徒たちに冷静に勧めています（ローマ 16:17）。リー兄弟は、この節の「離れ去りなさい」という言葉のフットノートで以下のように指摘しています：

第 14 章で、パウロは教理や実行で異なっている人たちを受け入れることについては、寛容で寛大でした。しかしここでは、分派的であったり、分裂を引き起こしたり、つまずきの原因を作る者たちからは離れ去らなければならないと、断固として、決然と語っています。いずれの場合も、その目的はキリストのからだの一を守ることにあり、それは、わたしたちが正常な召会生活を持つためです。

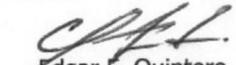
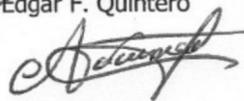
ですからわたしたちは、メキシコ、スペイン、そのほかの諸召会と結び合わされて、ドン・ユー・ランと、その働きと、その同労者たちを「分裂やつまずきの原因を作る者たち」として印づけます。

。コロンビアの聖徒たちはだれ一人としてこの分裂的な働きや、それを積極的に広めている人たちも受け入れてはなりません。もし聖徒たちのうちの誰かにこの働きを流布させている人たちに近づかれたら、その事をその地方の指導者たちの交わりをお願いします。わたしたちはみなこの事柄において「善いことでは賢く、悪いことではうとく」あるために訓練されなくてはなりません（ローマ 16:19 後半）。

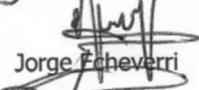
神の王国において共に働く者として、わたしたちは主の御前で、すなわち、彼のすぐにもどってこられる、かの日に報いてくださる「義なる審判者」の御前で、（Ⅱテモテ 4:8）、この事柄を祈りを込めて考察するようあなたがたすべてに求めます。

コロンビアにおける主の回復のために

Creyentes en Bogotá

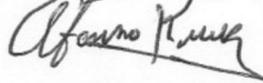

Edgar F. Quintero

Ader Cumplido

La iglesia en Cali


Jorge Farias

Jorge Echeverri

Orsini Ramos

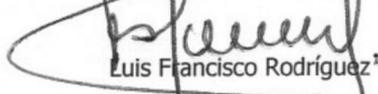
La iglesia en La Ceja

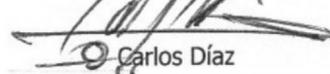

Alfonso Ramirez

Creyentes en Floridablanca y Bucaramanga

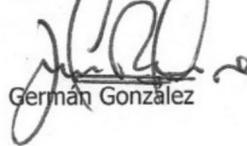

Heriberto Suarez

La iglesia en Fundación


Luis Francisco Rodríguez

Héctor Benavides

Carlos Díaz

La iglesia en La Mesa

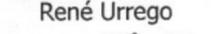
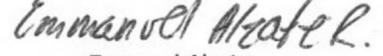

German Gonzalez

La iglesia en Buga


Carlos Ríos


Juan Fernando Núñez

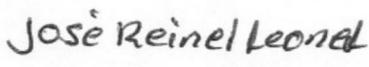
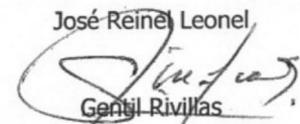
La iglesia en Jamundí


Francisco Lozano

René Urrego

Emanuel Alzate R.

La iglesia en La Torre


Gregorio Garcés

La iglesia en La Tebaida


José Reinel Leonel

Gentil Rivillas

La iglesia en Buenaventura


Rafael Rodríguez

La iglesia en Florencia


Luis Carlos Gaitán

La iglesia en Magangué


John Escorcia

La iglesia en Manizales


Luis Edgar Calderón


Erenel Díaz

La iglesia en Pasto

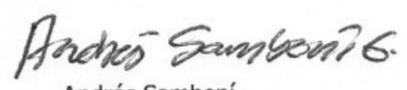

Alfredo Martínez

Creyentes en Medellín

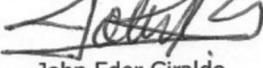

German Bartolo


Antonio Pérez

La iglesia en Pitalito


Andrés Samboní

La iglesia en Palmira


John Eder Giraldo


Omar Olaya


José Velandía